

ふろんていあタウン工房

ふろたん通信

2014年 4月 4日 広報センター



No. 2

MT.VICTORIA PROJECT

ビクトリア山第二次現地調査登山報告

3月14～20日に実施したミャンマー遠征「第二次調査登山」、通信第2号は、帰国当日の赤川調査隊長へのハードインタビューです。(聞き手は室井第一次調査隊長)

M どうもお疲れ様でした。皆さん元気に帰国され、まず一安心といったところですよ。一年前にURワンゲル設立40周年記念として行った調査登山の時は、ビクトリア山があるチン州は外国人旅行者の入域を規制していて、山で会った外国人登山者は英国人1パーティーだけでした。今回は規制解除後の登山でしたが、海外からの登山客は増えていましたか？

ビクトリア山登山口にて



A 結果から申し上げますと3パーティーと出会っています。私たちも昨年の第1次調査隊と同様に、3月の乾季にあたるビクトリア山（ミャンマー語でナマタン、地元ではコーホート「神が宿る山」と呼ばれている）を登ることにしました。ニャンウー空港からカンペレまでパジェロ2台で約8時間の道のり、途中のチャウク（石油発掘の町）からカンペレまでが泥状態道路で埃を巻き上げながら進み、後続車は堪ったものではない。乾季のメリットはカンペレまで道路が冠水せずにとどり着けること。今急ピッチで、碎石を敷き並べタールを散布し砂をまく、一連の人力作業が家族総出で行われていて、後2・3年ほどで道路も改善されるので、そうなれば雨季をチョイスして、花が豊富な4月から11月のビクトリア山を満喫出来そうです。同じホテルに宿泊した8人組のドイツ人は早朝に公園内をバードウォッチング、我々の登山開始地点（ゲートから10マイル地点）では、別ルート組のイタリア女性とブラジル人ペアと出会った（隣村から登ってきたとのこと）。もう1組の2人パーティーは、登山口より大分下界から登ってきたようである。西洋ではそれなりに知られているのではないかと。日本はこれからといったところでしょう。

M ビクトリア山はどんな山なのか、とにかく見て来ようというのが第一次調査でしたが、第二次調査隊には、ビクトリア山プロジェクトの今後の展開イメージを、会のメンバー全体が共有出来るようなキッカケづくりをするというミッションがありました。まずはナマタン国立公園事務所との相談からと、現地の状況に詳しい牧野植物園の草の根調査スタッフの方々も参加される意見交換の場をセットしましたが、どんな展開になりましたか。



ビクトリア山山頂

A 我々は室井さんからミッションを託され現地へ飛んだわけですが、そんな中で頼りとなるのが昨年と同じ通訳のウェンテェ氏（ウェ様と呼ぶ）であり、実際お世話になりました。ミッションの1つは公園事務所とのパイプづくりと今後の我々NPO法人（予定）の活動計画に関する関係者との意見交換であった訳です。意見交換会はビクトリア山から下山した16日の19時からということになりましたので、その前にナマタン国立公園事務所所長（テン・シャー・ソウ氏）を表敬訪問しました。

M これからの日本の旅行社との協力・連携を考え、二つのものを準備して出かけました。一つ目はビクトリア山での「花と緑の登山マップ」を作成するため衛星写真を合成したベースマップと、見本として贈呈する昭文社の山と高原地図「御嶽山」を持参してもらいましたが、どんな感触でしたか。

A まず公園事務所前のテーブルに「御嶽山」の地図を広げ、登山マップの必要性を説明、スケール1/5万程度、キープランも必要、山の主要な名称、花や樹木など位置等が書き込まれているなどイメージは伝わったようです。用意した衛星写真を見せて、登山ルートを記載していきたいが目印となるものがない。事務所に何か良いものがないかと尋ねたら所長が大きな図面を持ってきたが広域図面であり参考とならない。写真だけ撮って資料提供をお願いしました。

ナマタン国立公園事務所



公園事務所所蔵の公園地図



ふろたん通信 NO.2 (続き)

M 二つ目は、ピクトリア山を守り育てるルールの周知を図るため、自然教室などでの交流活動をイメージして作成中の、日本語とミャンマー語を併記した少年少女向けの小冊子「公園の登山道」。今後幅広い方々の意見を収集したいと持参しましたが、関心を示す様子など如何でした？



シャクナゲの大木 (群生している)

A 我々の街づくり仲間や登山仲間が作成した、日本の公園内の登山道整備・保全方法等を紹介する小冊子の趣旨を説明し、この冊子の利用方法について公園事務所やホテル・小学校への配布など今後の活用することなどを話して意見を聞きました。所長は静かに話を聞いていましたが、内容を十分吟味する時間がなかったこともあり、ウェーさん・旅行社を通して後日、要望やご意見をいただくこととなりました。

M オアシスリゾートでの意見交換会では、どんなやり取りがありましたか。

A 意見交換会のメンバーは、シェン・ゲー・ナインさん (前公園事務所長)、アースウォッチ・ジャパンの安田さん、牧野植物園の田上さんにウェーさんを交え、活発な意見交換の場になりました。前所長は地元チン州出身者で退職後も活動を継続する情熱ある人です。公園事務所での説明とほぼ同様のテーマで意見交換をしましたが、田上さんからは貴重種や群落等地図にプロットすること自体、植物が荒らされるのではないかと心配する意見があり、それに対して植物構成図のような資料をつけることはどうかという提案もありました。

左から前公園事務所長、安田さん、ウェーさん



A 思いがけなかったのは、帰りの日公園事務所にあいさつのため寄った時のことです。テン・シャー・ソウ所長自ら「こんなのでどうか？」という感じで渡してくれた地図、まさかコンター図が出てくるとは予想もしておらず、「これだ、これだ」と即時対応に感謝！感謝！作成範囲をもう少し広くとってもらおうようお願いし、バカンへと向かいました。



中央：公園事務所長 中央左：藤川さん(牧野植物園)

M 部分的とはいえ等高線が明確な地形図の提供を受けたのは、予想外の収穫でしたね。今回はまちナビ倶楽部から森角さん・三宮さんが参加された合同チームでしたが、お三方のミャンマーでの旅の印象を最後にまとめるとしたら、どんなところでしょうか？

A 若輩(2人と比べて・・・笑)の私、公団OBの大先輩のお二方と3人、そして最後まで付き合っていたいただいた通訳のウェーさん、悪路をパジェロで巧みな運転捌きしてくれたドライバーのサンさんとシェンさんの皆様のご協力をいただき、病気やけがもなく無事帰国できたのは日ごろの精進の賜物なのか、仏教国であるミャンマーでの度重なる俄か信心者の参詣の賜物(多分!!)

ミャンマーの大都市ヤンゴン市内はまさに日本の高度成長時代を思わせる街はいたるところで建築のラッシュ、通勤時は車の大渋滞。とにかくエネルギーギッシュ！そんな中、リゾート地で古都バガンでは圧倒されるパゴダ群、そして、今まで神秘的地域のチン州ナマタン国立公園の神が宿る山「ピクトリア山」はわれわれを温かく迎えてくれました。

森角さん三宮さんには至らぬ隊長をサポートしていただき、この場をお借りしてお礼申し上げます。出来ますれば、機会と旅費の都合がつけば再訪したいと感じました。

チェーズーティンパーデー (どうもありがとう)



バインウッドピラ (宿泊ロッジ)

M ありがとうございます。第三次調査隊メンバーを早目に募って、じっくりと引き継ぐことにしましょう。

今回のピクトリア山への旅について、もっと詳しい話は、今月の「山木会」(4月17日)で!

☆どなたでも気軽にお立ち寄りください。(於：びるまの壺琴 TEL.03-5420-1686)